

激突され②（家畜飼養管理関連）

牛の直腸検温をしようとした際、後脚で2回蹴られる

- 傷 病 名：右膝打撲
- 傷病の程度：全治1週間

発生状況

直腸検温を行うため、5頭の成雌牛をスタンションに保定し、後方からいきなり肛門に体温計を差し込んだ際、不意に牛が右後肢を蹴り上げ、右膝内側を2度蹴りつけられて受傷した。



原因と対策

〔原因〕

- ・ 当該牛は気性が荒いが、当日は落ち着いていたため、油断して声かけ等を行わずに作業したこと。

〔対策〕

- ・ 検温や注射等、牛が嫌がる作業を行う場合は、声かけや牛に触るなどしながら、細心の注意を払いつつ作業を進めること。また、対象牛だけでなく、隣や近くにいる牛の動きにも注意すること。

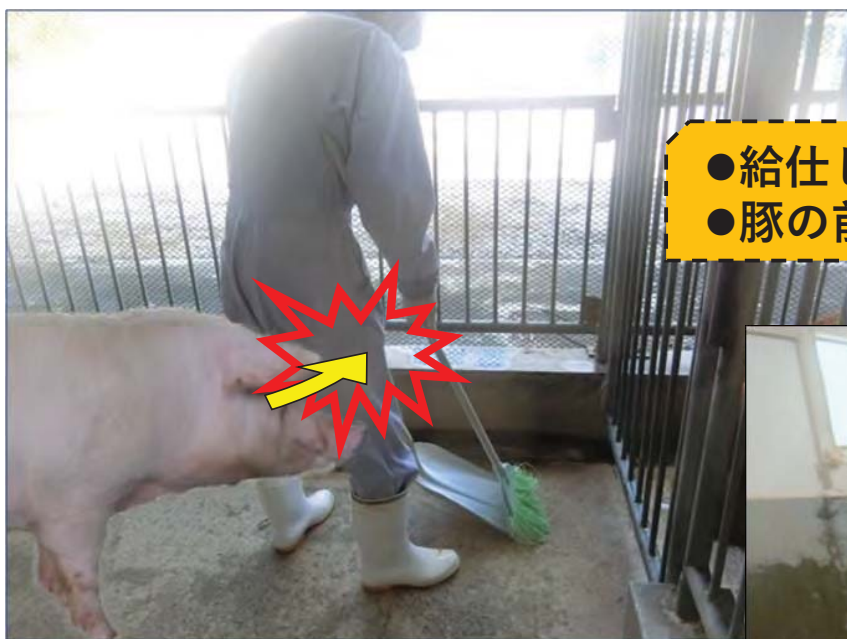
激突され③（家畜飼養管理関連）

豚房の清掃作業の際、豚に後ろから突かれた

- 傷 病 名：右大腿部裂創
- 傷病の程度：全治 3 週間

発生状況

雄豚の豚房に入り、畜舎の清掃作業を行っていた際、豚が背後から突進してきて、豚の牙が右大腿部に当たり受傷。



- 給仕してから豚房に入ること！
- 豚の前には立たないこと！



原因と対策

〔原因〕

- ・ 清掃の作業手順（予め給餌をおこない、採食に夢中になっている際に作業を行う。）を守らず、給仕せずに豚房に入り清掃作業を行ったこと。

〔対策〕

- ・ 清掃作業等を実施する際は、豚に給餌により誘導し、安全を確保してから作業を行うか、または豚を他の単房等に移動してから行うこと。

激突され ④ (家畜飼養管理関連)

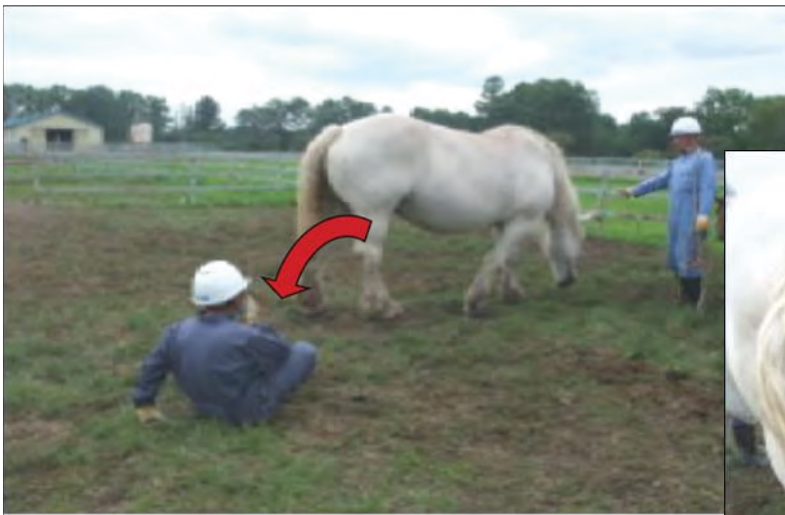
馬が後肢を高く蹴り上げて、蹄が顔面に当たった

●傷 病 名：顔面打撲

●傷病の程度：3日間の安静

発生状況

馬の体重測定を行うためパドックで馬を捕まえる作業を行っていた際、捕まえた馬が逃げたことから、その馬に近づいていったところ、馬が突然跳びはねて後肢を高く蹴り上げ、蹄が作業員の顔面に当たり受傷。



●興奮した馬には近づかない！



原因と対策

〔原因〕

- ① 馬の動きが落ち着かないうちに捕まえようとしたこと。
- ② 事故が起きたときはパドックにいた馬の頭数が少なく、動き回れる範囲が大きかったこと。また、蹴り上げた馬が若齢馬で成馬に比べて落ち着きがなかったこと。

〔対策〕

- ① 馬を移動した後、馬の動きが落ち着くまで待ってから捕獲すること。
- ② 馬の急な動きを感じた時は、互いに声かけを行い注意喚起すること。

はさまれ、巻き込まれ①（家畜飼養管理関連）

スタンションに手を入れ、牛の頭とパイプに挟まれた

●傷病名：右手打撲

●傷病の程度：軽傷

発生状況

スタンションのロックを解除したが牛が動かず、牛の首が入る所から頭部側に手を入れて追い出して移動させようとしたところ、牛が頭を上げたためにスタンションの上部パイプと牛の頭との間に右手を挟まれ受傷。



●牛の入っているスタンションに手を入れると挟まれる！

原因と対策

〔原因〕

- ① 被災した作業員は採用されたばかりで、スタンションに入っている牛の行動を予想できなかったこと。
- ② 牛が入っているスタンション部分に手を入れて追い出そうとしたこと。

〔対策〕

- ① スタンションの構造と予想される牛の行動について事前に説明すること。
- ② 牛を追い出す際は、首の入っていないところから行うこと。

はさまれ、巻き込まれ②（家畜飼養管理関連）

牛が誘導柵に突進し、指を引き綱と誘導柵の間に挟まれた

●傷病名：右第1末節骨骨折、伸筋肉腱断裂(マレット指)

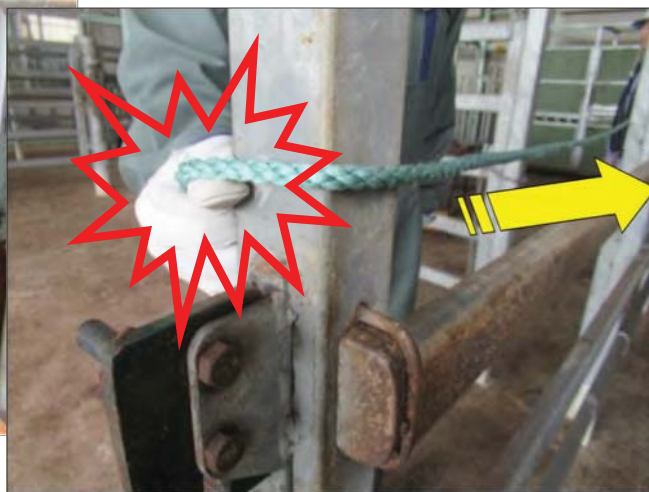
●傷病の程度：10日間の休業

発生状況

肥育牛の出荷作業において、出荷牛（920kg）の頭絡に繋いだロープを引き、誘導柵に移動させようとしていたところ、牛が急に誘導柵の中に突進し、ロープを持った右手親指が、ロープと誘導柵鉄柱の間に挟まれ受傷。



●ロープはいつでもリリースできるように持つ！



原因と対策

〔原因〕

- ① 牛が急に突進したこと。
- ② 突進した牛を制止しようとして、咄嗟^{とっさ}にロープを強く握ったこと。

〔対策〕

- ① 慣れている牛でも、出荷作業など非日常的な環境に置かれると、牛は興奮し予期せぬ行動を取ることを認識し、十分注意しながら作業すること。
- ② 牛を引くロープを扱う際は、急な行動にも対応出来るよう、いつでもリリース可能な状態にしておくこと。

はさまれ、巻き込まれ ③ (家畜飼養管理関連)

乳房炎牛の前搾りで足を踏まれる

●傷 病 名：右母趾基節骨骨折

●傷病の程度：全治 2 ヶ月

発生状況

乳房炎牛の前搾りをするため、牛に触りつつ、牛体左側乳房付近にしゃがんで右前乳頭から作業を始めようとしたところ、牛が突然被災者側に尻を振り、左後肢で右足甲部分を踏まれた。安全長靴は履いていたが、先芯により保護されていない部分を踏まれたために受傷。



●牛の蹄の着く範囲内には
できるだけ自分の足を置
かない！

原因と対策

〔原因〕

- ① 牛の蹄の着く範囲内に右足を置いていたこと。
- ② 牛の踏み換える動作を見逃し、退避行動が遅れたこと。

〔対策〕

- ① 牛の蹄が着く範囲内に足を置かないこと。また、右足に重心を置かないこと。
- ② 乳房炎牛の搾乳では脚を上げることが多いため、動作を見逃さないこと。

はさまれ、巻き込まれ④（家畜飼養管理関連）

スキッドステアローダーから降りようとして、アームに足を挟まれる

●傷病名：右母趾基節骨骨折

●傷病の程度：全治2ヶ月

発生状況

スキッドローダーから降りようとして、バケットが浮いた状態でエンジンをかけたまま安全バーを引き上げ、機内から出ようとしたところ、左手が安全バーに触れたために安全装置が解除され、踏み混んだ左足のペダル操作が有効となり、10cm程度浮いていたバケットアームが下がり、右足がステップとの間に挟まれた。



●バケットを下ろし、
エンジンを切ってから降りる！

原因と対策

〔原因〕

- ① バケットを下げないまま、エンジンを停止せずに機内から出ようとしたこと。
- ② 安全バーに触れてしまったこと。

〔対策〕

- ① 作業機械から降りる際は、バケットを最低降下位置まで下ろした後にエンジンを停止させ、安全バーをあげて降りる手順を徹底すること。
- ② 降車時の手順を作業機械に明示すること。

切れ、こすれ①（家畜飼養管理関連）

削蹄中、牛が動いてグラインダーが手に当たり受傷

●傷 病 名：左第1指裂創

●傷病の程度：軽傷

発生状況

削蹄作業用グラインダーを用いて削蹄中、保定中の牛が動いたため、右後肢に当てていたグラインダーが蹄に強く接触して弾かれ、蹄に添えていた左手親指にグラインダーが接触し受傷。



●正しい装備で作業を！



原因と対策

〔原因〕

- ① 保定が不十分だったこと。また、受傷する危険性のある位置に左手を添えて作業を行っていたこと。
- ② 薄いニトリルグローブを装着して作業していたこと。

〔対策〕

- ① 保定を確実に行うこと。
- ② 革手袋や耐切創の手袋を用いて作業を行うこと。

切れ、こすれ②（家畜飼養管理関連）

ミキシングフィーダーの内部に入り、オーガーナイフで足を切った

- 傷病名：右足部切創
- 傷病の程度：1週間の加療

発生状況

ミキシングフィーダーでヘイレージと乾草等を混合する作業の際、ラップ乾草を投入したところ、フィーダーのオーガ部が詰まったため、詰まりを解消するためにフィーダー内部に入った際、足の甲がオーガ部の刃に当たり受傷。



- 危険な状態をつくらない！
- 防護具を着ける！

原因と対策

〔原因〕

- ① 詰まった粗飼料を急いで取り除こうとし、安全確認を怠ったこと。
- ② 防護具なしでフィーダー内に入ったこと。

〔対策〕

- ① フィーダーに粗飼料が詰まることがないように、投入の際は出来るだけ少量ずつ投入すること。
- ② フィーダー内部で作業しなければならない場合は、足の甲などにプロテクターを装着し作業を行うこと。

切れ、こすれ③（粗飼料生産関連）

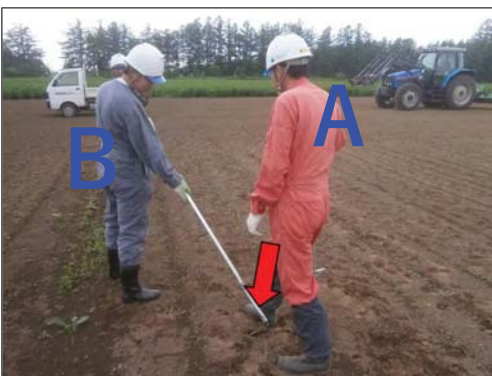
振り向きざまに隣の作業員のホーが足に刺さった

●傷病名：左下腿裂創

●傷病の程度：3日間の安静加療（2針縫合）

発生状況

作業員Aが後ろから呼ばれて振り向いた拍子に、隣の作業員Bの除草用ホーの刃を踏んでしまい、作業員Bが踏まれたホーを慌てて引き上げようとしたところ、ホーの刃が作業員Aの膝内側に刺さり受傷。



- 除草用ホーは鋭利な刃物！
- 常に周りをよく見て行動する！



原因と対策

〔原因〕

- ① 作業を急いでいたため、密集して作業していたこと。
- ② まわりをよく見ておらず、近くに他の職員がいることに気付かなかったこと。

〔対策〕

- ① 研いだホーは鋭利な刃物であり、使い方を誤ると大きな事故に繋がる**危険な作業であることを、作業前に全作業員に改めて共有すること。**
- ② ホーによる除草作業に当たっては、**隣り合わせで作業をせず畦を空ける等の安全対策を徹底すること。**

高温・低温の物との接触 (家畜飼養管理関連)

タンクから溢れた液体窒素が足にかかり受傷

●傷病名：左足Ⅲ度熱傷

●傷病の程度：約2ヶ月間の治療を要す

発生状況

液体窒素タンクに液体窒素を補充し、タンクの蓋を閉めた際に液体窒素が溢れ、左足にかかり受傷。

- 液体窒素温度は -196°C ！
- 爆発・窒息・凍傷に注意！



原因と対策

〔原因〕

- ① 液体窒素タンクへの補充量が多すぎ、蓋を閉めると溢れる状態であったこと。
- ② 当該タンクは他のタンクに比べて蓋が硬いため、閉める際により強い力が必要であったこと。そのため、蓋が閉まった際に勢いよく液体窒素が溢れたこと。
- ③ 慣れた作業のため、液体窒素の危険性について意識が欠如していたこと。

〔対策〕

- ① 液体窒素を取扱う際は、専用長靴、超低温液体ガス専用手袋を着用すること。
- ② タンクへの補充には、専用スケールで補充量を計測しながら実施すること。

有害物との接触（家畜飼養管理関連）

スノコの消毒で石灰乳の飛沫が目に入り受傷

- 傷病名：右角膜化学薬傷
- 傷病の程度：全治3週間

発生状況

豚房に敷くスノコを消毒するため、石灰乳に浸す作業を行っていた際、全体が浸るようスノコを揺らしたところ、石灰乳の飛沫が作業員の右目に入り受傷。



原因と対策

〔原因〕

- ・ 作業後に打ち合わせが予定されていたので、時間内に作業を終えなければという焦りの気持ちがあり、ゴーグルの着用を怠ったこと。

〔対策〕

- ・ どんな状況でも、保護具を着用すること。また、石灰乳等の薬液を取り扱う際は、液が体に付着しないよう、ゴーグルに加え、マスク、ゴム手袋、前掛けを着用すること。

その他（家畜飼養管理関連）

山羊の削蹄中、他の山羊に耳を咬まれる

●傷病名：咬傷

●傷病の程度：全治1週間

発生状況

パドック内で山羊の削蹄作業を行っていた際、他の山羊が作業員のヘルメットの顎紐に興味を示し接近してきて、顎紐に加えて作業員の耳も咬んだため出血した。



- 山羊は好奇心が強い！
- 山羊の歯は鋭い！

原因と対策

〔原因〕

- ① 山羊は好奇心が強く、ヘルメットの顎紐等に興味を示す認識が薄かったこと。
- ② 削蹄対象の山羊と他の山羊を分離して作業していなかったこと。
- ③ 削蹄作業に集中し、他の山羊の接近に気が付かなかったこと。

〔対策〕

- ① 削蹄作業は、他の山羊と分離して行うこと。
- ② パドック内では、常に山羊の動きに注意すること。



畜産関係災害事例集 令和2年6月29日発行

発 行 独立行政法人 家畜改良センター
連絡先 〒961-8511 福島県西白河郡西郷村大字小田倉字小田倉原 1
電 話 0248 (25) 2231
F A X 0248 (25) 3990
E メール: inquiry@nlbc.go.jp
インターネットアドレス <http://www.nlbc.go.jp/>